

目次——気概と行動の教育者 嘉納治五郎

発刊に寄せて

第一章 嘉納治五郎の生い立ちと柔道

第一節 学びの系譜 3

生誕から東京での修学へ／東京大学での修学／修学と嘉納思想の形成

第二節 講道館柔道の創設と理念 19

柔術の修行／講道館柔道の創設／講道館柔道の発展／精力善用自他共栄／講道館文化会の設立

第三節 女子柔道の取り組み 45

女子柔道の始まり（女性の入門）／福田敬子と米国への普及／女子柔道のこれから

第二章 教育者としての嘉納治五郎

第一節 嘉納の教育改革

67

教育者としての嘉納／中等教員養成をめぐる確執／中等教員養成改革の目指したもの／
 変わる中等教員像への対応——嘉納が残したもの／中等教員養成のモデルとしての高等
 師範

「コラム」孔子祭の復活 孔子祭典会委員長 嘉納治五郎の想い

92

第二節 体育・スポーツの発展

96

東京高等師範学校における校友会設立／長距離走の普及／水泳（遠泳、高師泳法）の普
 及／体操専修科から体育科の創設へ

第三節 大学への昇格運動

122

臨時教育会議と嘉納——師範大学案／高師の嘉納か、嘉納の高師か——大学昇格運動

第四節 留学生教育

141

宏文学院における留学生教育／東京高師の留学生

第三章 国際人としての嘉納治五郎の活躍

第一節 西洋世界と嘉納治五郎

163

ラフカディオ・ハーンによる柔道の紹介／初の渡欧／I O C 委員就任／第五回ストックホルム大会——日本初参加

第二節 ヨーロッパにおける柔道普及と「柔道世界連盟」構想

188

イギリス「武道会 (Budokwai)」への影響／「柔道世界連盟」構想

第三節 オリンピックの東京への招致

202

オリンピック・ムーブメント参入の理由／一九四〇年東京招致に関わる嘉納の理念と行動／東京招致に奔走した嘉納の教え子／オリンピックと武道的精神／嘉納と一九六四年東京オリンピック

第四章 現代への継承

第一節 オリンピックへと至る柔道の歩み 223

一九六四年東京大会招致までの歩み／オリンピックへと至る柔道の歩み／東京オリンピック競技会とその後の展開

第二節 日本体育協会と生涯スポーツ 241

生涯スポーツへの思い／スポーツ少年団の設立／スポーツ少年団と嘉納の理念

第三節 嘉納思想への回帰 258

「形」の研究の推進／「形」の国際選手権の開催／「柔道ルネッサンス」／嘉納治五郎への回帰／イタリアスポーツ教育協会の試み

第四節 ヨーロッパにおける武道への期待 275

武道の特徴／ヨーロッパにおける武道の理解／国際的な武道と日本的な武道

第五章 人間 嘉納治五郎

第一節 生徒との交流

289

嘉納塾における交流／附属中学校における交流／宏文学院における留学生との交流／東京高師における交流／教育を愛した嘉納

「コラム」 嘉納治五郎と諸橋轍次

307

第二節 IOC委員との交流

310

IOC委員としての交流／クーベルタンとの交流／他のIOC委員との交流／嘉納とIOC委員たちとの交流からみえるもの

筑波大学と嘉納治五郎のレガシー

331

国際レベルの研究大学へ／「精力善用」「自他共栄」と国際性／体育・スポーツの伝統／世に貢献できる人材を育成できる大学へ

特別寄稿 嘉納治五郎のレガシー——スポーツ、国際交流、教育
Keynote address to the International Symposium on Kano Jigoro's Legacy: Sports, International Exchange and Education

349

主な参考文献 350

嘉納治五郎 年譜 352

あとがき 361

執筆者一覧 363

索引 370

※本文中の引用箇所については、必要に応じて新字体に改めた。また、年齢については、満年齢で表記した。